

平成19年度 吉備学会 総会

日 時 平成19年3月19日(月) 18:00～18:45

場 所 公立学校共済組合岡山宿泊所 ピュアリティまきび
〒700-0907 岡山県岡山市下石井 2-6-41 TEL (086)232-0511 FAX (086)224-2995

議 事

- (1) 設立趣意に関する事項
- (2) 規約に関する事項
- (3) 平成19年度活動計画及び予算に関する事項
- (4) 役員選出に関する事項

配布資料

(1) 総会次第	1枚
(2) 設立趣意書	1枚
(3) 規 約	3枚
(4) 役員名簿	1枚
(5) 平成19年度事業計画書	2枚
(6) 平成19年度会計収支予算書	1枚
(7) 入会申込書	1枚

吉備学会設立趣意書

「吉備」、それは、古代吉備国が日本統一前夜に強大な力を発揮したと考えられる歴史的栄光に輝く地です。しかしその栄光の影で、多くの謎に包まれた「解明の待望久しい地」でもあります。岡山県は1876年に創設されましたが、それまでの吉備の国は、備前・備中・備後・美作から成り、小豆島・直島などをはじめ瀬戸内の島々の範囲にもわたっていました。気候が温暖で広大な土地は肥沃であり、稲作の先進地で、奈良平野を上回る生産量を誇っていたものとみられています。また、瀬戸内海沿岸地帯は製塩業の中心地であり、北に広がる中国山地は花崗岩地帯で砂鉄の一大産地で、これが古代吉備王国を反映させた原動力でした。鉄と稲と塩という、きわめて重要な物資をともに豊富に生産する地方といえ、日本国中で吉備地方しかなかったほどです。

それから時代は下って、21世紀。歴史の流れの中に浮かぶ現代の吉備人たち。私たちは、このような吉備の栄光を背に受け、どこにどのように進むべきなのでしょう。歴史と文化が育ててきた良きものを「保存」(守る)・「再生」(取り戻す)し、より望ましいものを「創生」する(創り出す)活動を進めねばなりません。吉備の歴史の謎解きと、新たな吉備創生への旅に皆で出かけようではありませんか。

吉備という地域主体(ローカル)からの世界(グローバル)への発信、すなわち「ローバリズム」の追求を基盤にした営みが地域創生学です。地域創生学としての「吉備学」は、吉備地域から全国・世界へ発信していくこと(「ローバル社会」)を目指した地域創生学で、人間・社会・自然・文化のすべての課題解決をめざす総合学です。産学官民協同研究によって「総合人間生活学」として構想し、学問を大学中心の学会内部の研究体系に留めることなく、社会に開放し、社会に根付き、社会を創生する、地域住民主役の学問を目指しています。

たとえば、岡山を中心にした「吉備の国」における「桃太郎王国」としての歴史的・民俗学的研究を総集し、岡山県と香川県とが連携・協働して、「桃太郎文化・経済圏」を建設し、「桃太郎文化学」の確立を通しての地域創生に努力したいと思います。ひいては「桃太郎」の精神を重んじ、すべての命を大切に、地球環境を守り、共存共栄を目指すものです。そのようなプロセスを踏みながら、地域創生学としての「吉備学」を確立したいと思います。

吉備学は、吉備地域の総合力の向上を目指していますが、地域の総合力は、「家庭力・学校力・地域力」の「連力」です。地域の中で家庭・学校・地域の全構成員が連携・協働・融合して、吉備地域の総合力としての「連力」を創生していくことを目指しています。そして、生涯学習による「人づくり」、「地域社会づくり」に向けた生涯学習社会の実現を目指します。

これらの課題と展望に立って、産学官民すべての人の英知を集めて地域創生を目指す「吉備学会」の設立を提案します。本学会の設立の趣旨をご理解頂き、皆様の積極的な入会をお待ちいたします。

平成19年3月19日

設立代表者 松畑 熙一

発起人一覧(五十音順)

有松 英昭、飯田 哲司、猪熊 真、今西 通好、大橋 宗志、木村 宏、越宗 孝昌、小嶋 光信、佐藤 大介、佐藤 信、柴岡 元、島津 義昭、角田 みどり、住野 好久、立石 憲利、千葉 喬三、中島 博、鍋島 豊、原 憲一、福武 總一郎、古市 大蔵、松畑 熙一、三浦 孝仁、薬師寺 茂、吉川 昌宏

吉備学会規約

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、吉備学会と称する。

(所在地)

第2条 本会の事務局を岡山県岡山市京山1丁目2番21号 コミュニティ・プラザ連塾 に置く。

第2章 目的と事業

(目的)

第3条 本会は「吉備学」の確立と吉備地域を中心とした地域創生をめざして総合的に研究・実践することを目的とする。

「吉備学」は、吉備地域(主として岡山県、広島県東部、香川県一部、兵庫県一部)から全国・世界へ発信していくこと(「ローバル社会」)を目指した地域創生学で、人間・社会・自然・文化のすべての課題解決をめざす総合学である。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 総会
- (2) 講演会、シンポジウムなどの地域創生活動
- (3) 「吉備創生カレッジ」への講師派遣などの連携事業
- (4) 研究部会、研究発表会
- (5) 会報などの発行
- (6) その他の事業

第3章 会 員

(種別と資格)

第5条 本会の会員は、次の3種とする。

- (1) 正 会 員 本会の目的に賛同して入会した学生以外の個人
- (2) 学生会員 本会の目的に賛同して入会した高校生以上の学生個人
- (3) 団体会員 本会の目的に賛同して入会した団体
- (4) 賛助会員 本会の事業に賛助するため入会した個人及び団体

(会費)

第6条 本会の会員は次に定める会費を納入しなければならない。

- (1) 正会員 年会費 3,000円
- (2) 学生会員 年会費 1,000円
- (3) 団体会員 年会費 5,000円
- (4) 賛助会員 一口 10,000円以上

なお、上記会費を滞納した場合は、理事会において、退会したものとみなすことができる。

(入会)

第7条 本会の目的に賛同する者は何人も、所定の申込用紙を理事会に提出することで、会員になることができる。

第4章 役員

(種別および定数)

第8条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 理事 若干名
- (4) 会計監査 2名
- (5) 事務局長 1名
- (6) 事務局次長 1名

(選任等)

第9条 理事および会計監査は、総会において会員から選任する。

- 2 会長及び副会長は、理事の互選とする。
- 3 会計監査は、理事を兼任することができない。
- 4 事務局長および事務局次長は会長が任命する。

(職務)

第10条 会長は本会を代表し、会務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、学会運営を分掌する。
- 3 理事は、理事会に出席し、本会の運営に当たる。
- 4 会計監査は、本会の会計を監査する。
- 5 事務局長・事務局次長は、会長の指示の元で事務局の運営に当たる。

(任期)

- 第11条** 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。
 - 3 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
 - 4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

第5章 会 計

(事業経費)

- 第12条** 本会の事業経費は次に掲げるものをもって構成する。
- (1) 会費
 - (2) 寄付金
 - (3) その他の収入

(事業年度)

- 第13条** 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第6章 そ の 他

(顧問)

- 第14条** 本会に、顧問を置くことができる。
- 2 顧問は、理事会が議を経て、会長が委嘱する。

(規約の変更)

- 第15条** 本会の規約は、総会において出席会員の3分の2以上の賛同がなければ変更できない。

付 則 本会の会則は、平成19年3月19日より施行する。

吉備学会役員名簿

(同役名内は五十音順)

No.	役名	氏名	所属 / 役職
1	会長	松畑 熙一	中国学園大学・中国短期大学 学長
2	副会長	柴岡 元	岡山県立岡山朝日高等学校 校長
3	同	島津 義昭	岡山県 副知事
4	同	吉川 昌宏	株式会社 大本組 取締役副社長
5	理事	有松 英昭	ISO サポートセンター岡山 代表
6	同	猪熊 真	岡山県産業労働部観光物産課 課長
7	同	今西 通好	岡山経済同友会 教育問題委員会 委員長
8	同	大橋 宗志	山陽新聞社文化事業部 部長
9	同	佐藤 信	学校法人ベル学園 副理事長
10	同	住野 好久	岡山大学教育学部 助教授
11	同	立石 憲利	岡山民俗学会 理事長
12	同	鍋島 豊	岡山県教育庁生涯学習課 課長
13	同	原 憲一	山陽放送 取締役報道局長
14	同	古市 大蔵	株式会社トミヤコーポレーション 代表取締役
15	同	三浦 孝仁	岡山大学教育開発センター 教授
16	同	森崎 岩之助	福武教育振興財団 常任理事
17	同	薬師寺 茂	岡山県立岡山東商業高等学校 校長
18	顧問	越宗 孝昌	山陽新聞社 代表取締役社長
19	同	小嶋 光信	両備グループ 代表
20	同	千葉 喬三	岡山大学 学長
21	同	中島 博	ナカシマプロペラ株式会社 取締役会長
22	同	福武 總一郎	株式会社ベネッセコーポレーション 代表取締役会長兼社長兼 CEO
23	会計監査	木村 宏	岡山理科大学 副学長
24	同	角田 みどり	岡山市立福浜小学校 校長
25	事務局長	飯田 哲司	中国学園大学 学長補佐・地域連携センター長・教授
26	事務局次長	佐藤 大介	中国学園大学・中国短期大学 非常勤講師

平成 19 年 3 月 19 日現在

平成19年度 吉備学会 事業計画書

自平成19年3月19日 至平成20年3月31日

1 事業実施の方針

当初年度の事業として、吉備地域の先行研究調査および地域の団体との連携強化を中心に実施し、あわせて各種専門部会を設置して、次年度以降の事業の企画検討を行う。

「学びスタイル」の吉備からの発信

「第19回全国生涯学習フェスティバルまなびピア岡山2007」(11/2~11/6)に向けて

産学官民のパートナーシップによる協働によって構築する「吉備学」の発信

11月3日(土)「地域創生学研究所」と合同で講演会・シンポジウムの開催

県民総参加による「吉備発連創生型学びスタイル」の発信

(例)「桃太郎鍋」「吉備キビ桃太郎体操」「桃太郎ウォーキング」

「家庭力 学校力 地域力」の“連力”の発信

2 事業実施に関する事項

(1) 総会

吉備学会設立総会・懇親会

(設立趣意説明・役員選出・規約承認等の総会行事および親睦を目的とした懇親会)

日時：3月19日(月)18:00~21:00

会場：ピュアリティまきび

対象：原則として会員

(2) 講演会、シンポジウムなどの地域創生活動

吉備学会設立記念講演会

(地域で活躍されている講師による基調講演の実施)

日時：3月19日(月)14:00~16:40

会場：さん太ホール

対象：一般

吉備学会ミニ講演会

(各研究部会が中心となって、年に1回実施する講演会。吉備学会の広報(会員募集)を目的として、また、会員への会費還元事業として。)

(3) 「吉備創生カレッジ」への講師派遣などの連携事業

「吉備創生カレッジ」への講座担当の推進

「吉備文化を楽しむ会(代表：今西通好氏)」と連携した『吉備学懇話会』の実施

連塾・地域創生学研究所(ISCI)との連携して全国生涯学習フェスティバル2007へ参加

大学コンソーシアム岡山との連携しての研究推進

直接的・間接的を問わず、吉備地域における地域研究等の実践者や研究者を探し、本学会の活動への協力要請

具体例：一般的研究例：「心とストレス」

間接的研究：「江戸時代のリサイクル社会」

直接的研究：「岡山発国際貢献」

(4) 研究部会、研究発表会

部会・発表会準備委員会検討委員会（理事会）

（各種研究部会を検討し、部会長ならびに、研究発表会準備委員の選任または依頼準備等、部会・発表会準備委員会発足のための準備会議）

日 時：4月17日（火）18:00～20:00

会 場：コミュニティ・プラザ連塾

対 象：理事

【研究部会案】

「歴史研究部会」「文化研究部会」「教育研究部会」「社会研究部会」「地域創生活動研究部会」
「食農教育研究部会（食育検定推進）」

原則として隔月に部会を開催して進め、必要に応じて公開研究会（ミニ講演会を含む）などを実施すると共に、各部会の情報交換・進捗状況報告を目的とした部会長会議を実施する。

【発表会案】

各部会や外部団体等が集結し、広く一般の人を対象とした全体発表会を次年度以降実施する。

(5) 会報などの発行

編集委員検討委員会（理事会）

（編集委員の選任または依頼準備等、委員会発足のための準備会議）

日 時：4月17日（火）18:00～20:00

会 場：コミュニティ・プラザ連塾

対 象：理事

【編集委員会】

リーフレットや会報の編集、発行、配布等の活動を行うために、随時委員会を開催する。

リーフレット発行

（吉備学会の紹介や活動内容など外部への広報を目的としたリーフレットの発行

会報の発行

（会員に対して活動内容報告や次年度活動計画を含む会報の発行。地域創生学研究所の研究成果をまとめたものを掲載する。）

(6) その他の事業 必要に応じて実施

平成19年度 吉備学会 会計収支予算書

自平成19年3月19日 至平成20年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額		
収 入 の 部			
1 会 費 収 入	400,000	400,000	
2 寄付金 収 入	100,000	100,000	
3 事 業 収 入	0	0	
4 その他の収 入	0	0	
当期 収 入 合 計			500,000
前期 繰越 収 支 差 額			0
収 入 合 計			500,000
支 出 の 部			
1 事 業 費			
(1) 総会事業費	80,000		
(2) 地域創生活動費	70,000		
(3) 連携事業費	60,000		
(4) 研究部会、研究発表会費	70,000		
(5) 会報などの発行費	150,000	430,000	
2 管 理 費			
通 信 費	40,000		
消 耗 品 費	30,000	70,000	
3 その他の支出			0
当期 支 出 合 計			500,000
当期 収 支 差 額			0
次 期 繰 越 収 支 差 額			0

平成19年度 吉備学会 総会 議事録

(1) 設立趣意に関する事項

拍手多数をもって賛同されました。

(2) 規約に関する事項

拍手多数をもって承認されました。

(3) 平成19年度活動計画及び予算に関する事項

拍手多数をもって承認されました。

(4) 役員選出に関する事項

拍手多数をもって承認されました。